

普及項目	養殖・流通
漁業種類等	養殖業
対象魚類	マガキ
対象海域	八代海

県南地区でのマガキ養殖指導及び広域連携の取組み

県南広域本部水産課・吉川 真季

【背景・目的・目標（指標）】

八代海では、アサリ採貝業やノリ養殖業の不振、漁船漁業における水揚量の減少等により漁業者の経営は厳しい状況にある。このような中、管内の宇城市三角町、八代市鏡町、芦北町、津奈木町、水俣市の5地区では、新たな漁業であるマガキの養殖に取り組んでいる。そこで、マガキ養殖の安定生産と販売体制整備による漁業経営の安定を図るため、漁協及び生産者に対して、マガキの養殖管理等について指導を実施した。なお、今年度は、全5地区への養殖管理等の指導を実施することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

（1）生残調査及び養殖管理指導

5地先において、生産者及び関係者とともに、脱貝前の令和2年（2020年）10～11月時点に生残調査を実施した（表1）。

また、各地先での現地指導のほか、生残率、個数及び殻付重量からマガキの重量組成を算出し、出荷数量の推定等を行った。また、前年度までの調査結果をとりまとめ、当該漁期の販売計画及び販路開拓に反映させる基礎的な情報として、漁協及び生産者へ情報提供した（図1）。

（2）マガキ種苗の共同購入

マガキ種苗の安定確保と経済性を考慮し、生産者から種苗を共同購入したいとの意見があったため、平成30年度（2018年度）からマガキ種苗の共同購入を実施している。なお、水産課が4地域の生産者との連絡調整を行い、令和2年（2020年）10月26日に宮城県産の種苗をトラックにより福岡県経由で八代市鏡町に搬入した。その後、残り3地区へは、各地区の漁業者がトラックに積み替え、搬入を行った（図2）。

【成果・活用】

令和2年度（2020年度）は、令和2年7月豪雨の影響で前年度よりも生残が悪い地区が多かった。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、今漁期の出荷計画を立てることは困難であった。なお、マガキ種苗の共同購入については、中核となって主体的に取り組んでいく生産者がいないため、体制作りが必要である。

【達成度自己評価】

3 おおむね達成できたが、取組に改善を要する等の課題も見られた（51～75%）

表1 各地先におけるマガキ生残調査結果

		ロープ 本数	生残率	規格外	豆	小	並	大
三角町	R2	5	31.3%	28%	19%	18%	34%	1%
	R1	4	36.2%	8%	12%	17%	49%	14%
	H30	4	45.9%	17%	6%	12%	42%	23%
鏡町	R2	5	38.1%	8%	13%	20%	52%	7%
	R1	5	31.3%	5%	10%	15%	48%	24%
	H30	5	33.7%	22%	22%	24%	30%	1%
芦北町	R2	3	28.2%	9%	22%	27%	42%	0%
	R1	2	53.3%	6%	12%	20%	47%	15%
	H30	4	17.0%	75%	23%	2%	0%	0%
津奈木町	R2	2	28.3%	29%	38%	20%	12%	1%
	R1	4	47.2%	55%	19%	16%	10%	0%
	H30	5	39.3%	99%	1%	0%	0%	0%
水俣市	R2	4	30.5%	25%	27%	23%	25%	0%
	R1	3	49.6%	31%	30%	22%	17%	0%
	H30	8	42.7%	78%	15%	6%	1%	0%

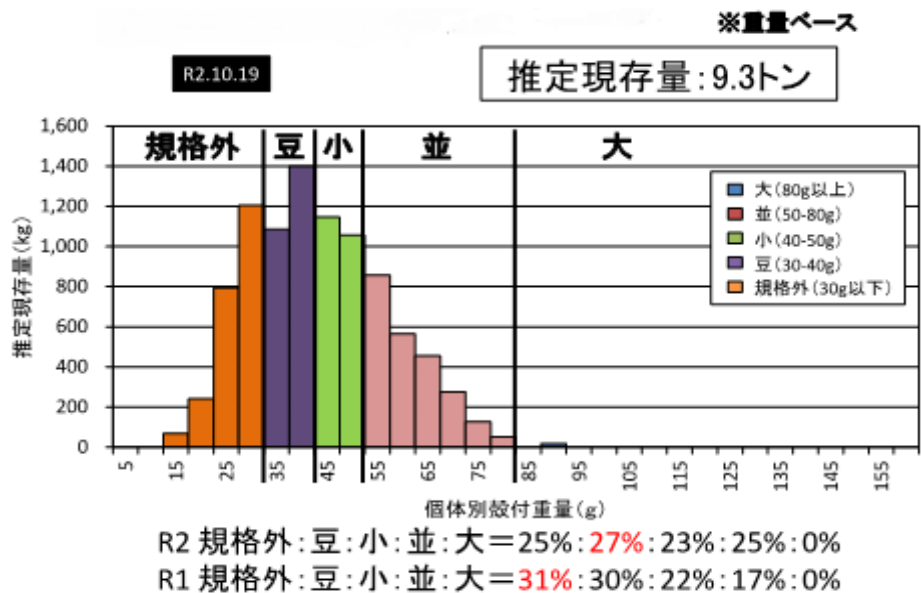


図1 マガキ生残調査から推定したサイズ別重量組成 (水俣市地先)



図2 マガキ種苗の共同購入